

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要				1-2 外観			
建物名称	(仮称)千駄ヶ谷一丁目計画			階数	地上5F地下1F		
建設地	東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目33番8			構造	S造		
用途地域	第二種住居地域、準防火地域			平均居住人員	176 人		
地域区分	6地域			年間使用時間	2,085 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所			評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2025年10月 予定			評価の実施日	2025年9月1日		
敷地面積	1,248 m ²			作成者	南健太郎		
建築面積	779 m ²			確認日	2025年9月1日		
延床面積	3,653 m ²			確認者	南健太郎		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)									
<div>BEE =1.5</div> <div>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</div>		<div>★ ★ ★ ★ ★</div> <div>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</div> <div>標準計算</div> <table><tr><td>①参照値</td><td>100%</td></tr><tr><td>②建築物の取組み</td><td>83%</td></tr><tr><td>③上記+②以外の</td><td>83%</td></tr><tr><td>④上記+</td><td>83%</td></tr></table> <div>(kg-CO₂/年・m²)</div> <div>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</div>		①参照値	100%	②建築物の取組み	83%	③上記+②以外の	83%	④上記+	83%		
①参照値	100%												
②建築物の取組み	83%												
③上記+②以外の	83%												
④上記+	83%												
2-4 中項目の評価(バーチャート)													
Q 環境品質													
Q1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境(敷地内)									
<div>Q1のスコア= 3.5</div>		<div>Q2のスコア= 3.5</div>		<div>Q3のスコア= 3.4</div>									
LR 環境負荷低減性													
LR1 エネルギー		LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境									
<div>LR1のスコア= 3.0</div>		<div>LR2のスコア= 3.6</div>		<div>LR3のスコア=3.4</div>									

3 設計上の配慮事項		その他	
総合		0	
計画地は新宿御苑の南側に位置しており、緑豊かな周辺環境に溶け込む色彩、緑化計画にするとともに、園庭内及びその周囲からの眺望を保全する屋外設備機器の設置方法に配慮した計画とする。			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	
・サッシ遮音等級はT-2以上を確保し、音環境の向上に配慮する。 ・十分な換気量を確保し、適切な空気質の確保に配慮する。	・建物コンセプトに基づく内装計画により、快適な居住性に配慮する。 ・屋上緑化や前面の新宿御苑の自然が視認できるよう、リフレッシュ性を高める配慮をした。	・地上のみならず屋上にも緑化を行い、生物資源創出に配慮した。 ・新宿御苑、西面道路側を3階建てとして建物ボリュームを抑え、圧迫感を感じさせない形状としている。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
・適切な断熱を行い、建物外皮の熱負荷抑制に配慮する。	・節水効果のある水栓等を採用し、水資源保護に配慮する。 ・有害物質や地球温暖化に繋がる材料の使用を控え、敷地外への影響に配慮する。	・適切な駐輪・駐車台数を確保し、周辺の道路インフラへの負荷抑制に配慮する。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される